

農林中央金庫の100%子会社で、投資を専門とする農

林中金キャピタル（和田透社長、東京都千代田区）は5月15日付で、食品総合物流の山本水産輸送（岡山市中区）を

中核とするヤマスイグループ8社の全株式を取得した。ク

レジオ・パートナーズ（広島市中区）が仲介。先を見据え

た事業承継を課題と捉えてきた同グループと、銀行法等改

正（2021年5月）による規制緩和でバイアウト投資が可能になった農林中金キャピタルが株主として経営に参画、さらなる基盤強化と業務拡大を図る。個人事業で創業し、わずか26年間でグループ年商およそ100億円規模（今

年9月期見込み）に急成長した企業体が新たな一歩を踏み出すことになった。

## ●第1号投資に

農林中金キャピターエクイティ（未公開）  
株式の投資拡充

を目的として2021年8月に設立され、同10月に事業をスタートさせた。岡山市中区にあるヤマスイグループ本部の会議室で5月15日に開かれた会見で、和田社長は「株式取得が10%（普通銀行は5%）に制限されてきた農林中央金庫が規制緩和により、投資専門の子会社を設けることで100%出資することが可能になった」と背景を説明した。

「なかでも事業承継やベンチャー、事業再生、地域活性化の4分野はリスクマ

ーが不足している。政府にも、そこへ融資ではなく、株式のおカネを回さなければいけないといふ考え方がある」（同）と環境の変化に触れながら、「当社が手掛けれる記念すべきバイクアウト投資の第1号となった」と力を込めた。運用する3号の会見で実運送5社など計8社の全株式を譲渡した経緯について、創業オーナーの山本新吾氏は「グループの全株式を譲り受けることができた経緯を話した。今後については課題となっていた。ただ、当初からM&Aで対応してもらいたい」とオペレーションは昇格で対応してもらいたい、我々は非常勤の取締役（1年間）と

（左から）和田、時弘、山本貢一、横田、杉田泰視の各氏

一方、同会議室での会見で実運送5社など計8社の全株式を譲渡した経緯について、創業オーナーの山本新吾氏は「グループの全株式を譲り受けることができた経緯を話した。今後については課題となっていた。ただ、当初からM&Aで対応してもらいたい」とオペレーションは昇格で対応してもらいたい、我々は非常勤の取締役（1年間）と

から頑張ってきた3人（役員）に任せた。その思いがあった。それを理解してもらえた」と説明。幹部の3人が8社の社長にそれぞれ就任する一方、自らは非常勤の相談役（1年間）として経営から外れることが多かった。また、「数年前からSNSを使つた同業者によるヘイト的な書き込みの被害を受け、そのことも経験

役として一緒に経営に貢献していく考え方。グループ経営会議を立ち上げ、3か月ほどで中長期計画も作成するという。

## ●後任は昇格で

個人で創業した2年後の1999年に一般貨物運送事業の許可（山本商事）を取得し、翌年に山本水産輸送として法人化。近年はM&Aも積極的に進め、8社による企業体を構築してきた同グループの前年度の売上高は約83億円にのぼる。コロナ禍にあっても物流事業は好調で、今年に入って始めた燃料スタンド事業も手堅く推進。今決算（9月期）では同100億円規模を見込んでいる。

△山本貢一（元常務）＝山本水産輸送（岡山市中区）、あさひ印刷所（岡山県矢掛町）、滝宮運送（香川県綾川町）、東部興産（岡山県笠岡市）▽時弘幸司（元取締役本部長）＝マスイ物流（岡山市中区）、三島機帆船（愛媛県四国中央市）タクシー（岡山県里庄町）（長尾和仁）

當の最前線から退く原因の一つとなつた」との事情も吐露。「事実無根の誹謗・中傷であつたうえ、同業者のなかでも近い関係の存在だっただけに、恨み節というのもある」と最後に胸の内を明かした。

△横田耕三（元取締役事業部長）＝ヤマスイグループ本部（岡山市中区）、里庄タクシー（岡山県里庄町）▽時弘幸司（元取締役本部長）＝マスイ物流（岡山市中区）、三島機帆船（愛媛県四国中央市）タクシー（岡山県里庄町）（長尾和仁）

# ヤマスイが新体制へ 8社の全株式を譲渡

